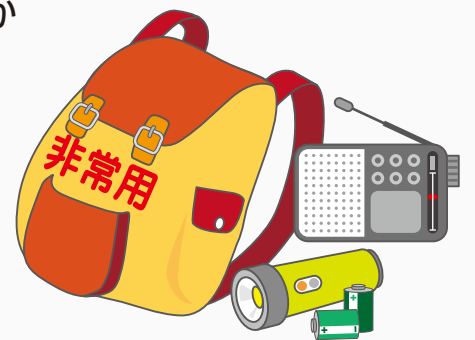
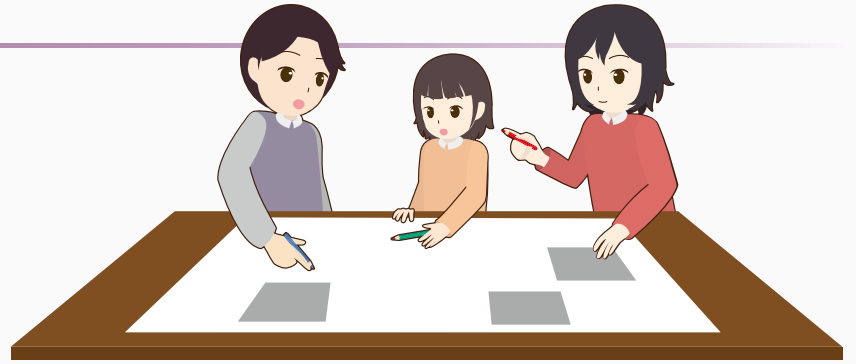


家庭での備え

突然起こりうる災害を予測するのは難しいものです。いざというときの家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを普段から家族でよく話し合っておきましょう。その際、「非常時持ち出し品の準備&チェック」のページ(P16~17)を活用して、持ち出し品の点検も行っておきましょう。

▶ 家族で話し合っておきたい項目

- ① 家の中ではどこが一番安全か
- ② 救急医薬品や消火器などを準備しているか
- ③ 乳幼児や高齢者の面倒は誰がみるのか
- ④ 安全な避難経路、避難場所、避難所はどこにあるのか
- ⑤ 避難するとき、誰が何をもち出すのか、非常時持ち出し袋はどこに置くのか
- ⑥ 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所はどこにするのか
- ⑦ 昼の場合と夜の場合の役割分担は、はっきり決まっているか
- ⑧ 地域の防災活動(自主防災組織の訓練など)に参加しているか



▶ 家庭のオリジナルマップの作成

家族で話し合った内容なども踏まえ、自宅から避難所(場所)までの経路や危険な場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家庭内で共有しておきましょう。

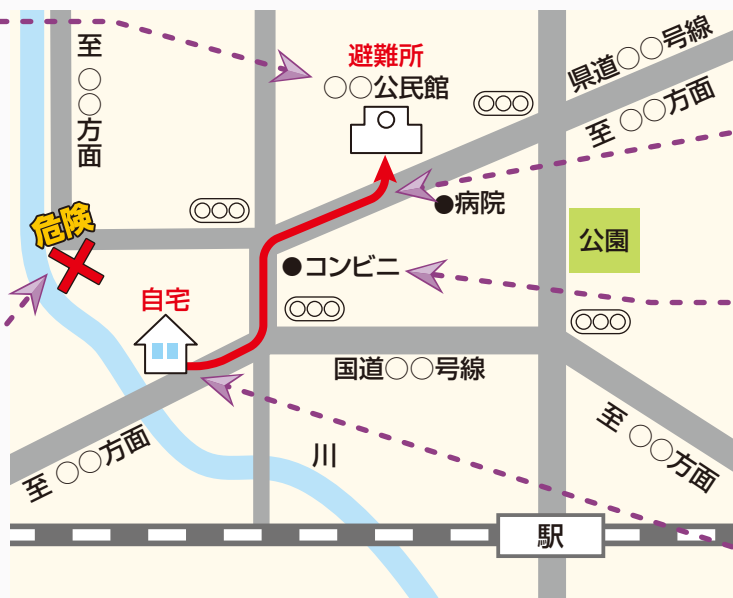
Web版ハザードマップで、印刷することができます。→ <https://www.town.arita.lg.jp/safety/hazardMap>

避難所(場所)

災害が発生した際に避難する場所をあらかじめ確認しておきましょう。

危険な場所

川の近くなど、洪水時に危険となるような箇所には印をつけ、その避難経路は通らないようにしましょう。



避難経路

避難所(場所)までの経路となる、矢印を書き込みましょう。

目印となる場所

避難経路上で目印となる箇所を書き込んでみましょう。特に曲がり角には分かりやすいように目印を加えてみましょう。

自宅

自宅を書き込みましょう。

▶ 自主防災組織への参加

巨大地震などで大規模災害が発生すると、火災の複数同時発生や建物崩壊、交通網の寸断などで防災機関が満足に機能しなくなる可能性が考えられます。

こうした場合、個人や家族だけの力では各地域の被災者、負傷者を助けることは困難となるため、近隣住民や地域で一体となって協力して防災活動を行う「共助」が重要です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えで隣近所がお互いに協力し、地域ひとつになって防災活動を行うのが「自主防災組織」です。「自主防災組織」での訓練は、防災活動に関する知識や技術を学ぶのによい機会です。ぜひ参加しましょう。

